授業科目名	動物内科看護学実習Ⅰ	科目コード	2501016		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	1年
担当教員	川越 瞳				
	実務経験教員 (☒ 有 ・ 無) 実務経験内容 愛玩動物看護師 動物病院にて5年間動物の診療補助、看護に従事				
開講時期	☒ 前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	45 時間	
	☒ 必 須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	動物看護実習テキスト			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社エデュワードプレス			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書	動物看護学テキスト 愛玩動物看護技術プラクティス				
授業形態	講義 ・ 演習 ・ ☒ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<p><授業の目的・目標> 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 犬猫の健康の保持・増進のために行うべき日常ケアを正しい手法で実践する。また、動物内科看護学で学んだ診療補助に必要な技術を実践し習得する。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 別紙①参照</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他> 動物内科看護学</p>					

授業科目名	動物内科看護学実習Ⅰ
-------	------------

3H/ 回	授 業 内 容	備 考
1	実習の目標、取り組みの注意点、掃除の仕方 飼育環境の整備	
2	動物種に応じた安全なハンドリング 動物の安全な運動	
3	基本的な保定①	
4	基本的な保定② 耳掃除、爪切り、肛門膿処置、口腔衛生管理 被毛の手入れ（シャンプー、ブラッシング）	
5	全身状態の評価、バイタルサインの評価①	
6	全身状態の評価、バイタルサインの評価②	
7	診察の補助、診察室の衛生管理	
8	注射器の管理と取り扱い	
9	採血、採尿の手順	
10	薬剤の取り扱い	
11	投薬の方法	
12	輸液に関わる技術①	
13	輸液に関わる技術②	
14	前期まとめ	
15	実技試験	

別紙②【「動物内科看護学実習Ⅰ」「動物臨床検査学実習Ⅰ」「動物外科看護学実習Ⅰ」「動物臨床看護学実習Ⅰ」学習成果指標】

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準			
			4	3	2	1
汎用的技能	自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。
自律性と責任感	責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。
倫理観とプロ意識	職業倫理の理解	職業人としての社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対する関心が低いため、やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。

※評価方法

上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計28点満点中 23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。